



**ZOOM
UP**

小学校で活躍する JET-ALT

今後全面実施される新学習指導要領には外国語教育の早期化・教科化が含まれ、ネイティブ・スピーカーを活用した外国語指導体制の充実が求められている。JETプログラムで招致したALT（Assistant Language Teacher：外国語指導助手）が小学校で活躍する機会は今後ますます増加することから、本特集ではさまざまな自治体における小学校のJET-ALTの活用事例について紹介する。

〔(一財)自治体国際化協会 JETプログラム事業部〕

1 新学習指導要領と小学校外国語教育について ～ALTの活用により授業を実際のコミュニケーションの場面に～ 文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室長 金城 太一

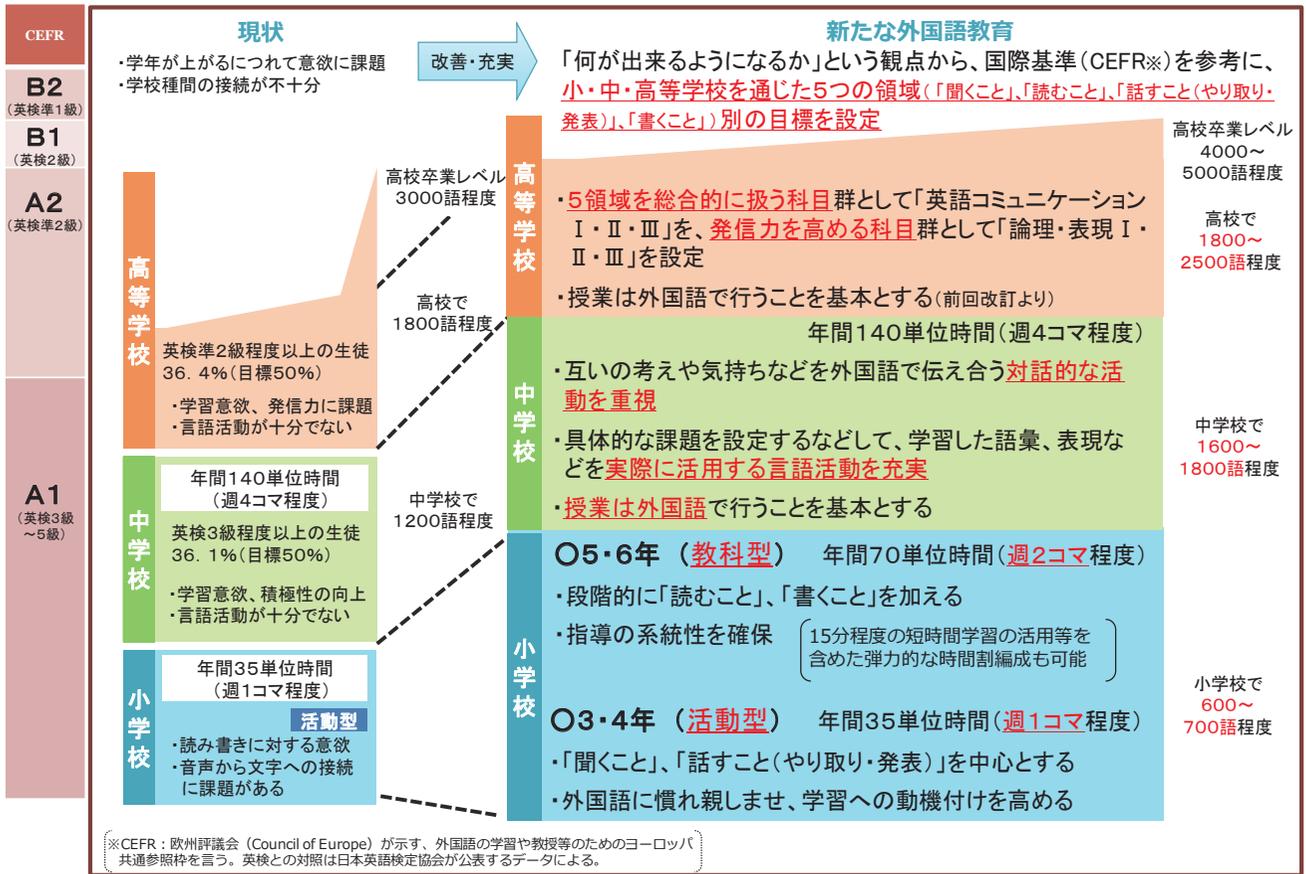
学習指導要領の改訂について

2016年12月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）を踏まえて学習指導要領の改訂が行われ、2017年3月に新小学校学習指導要領、新中学校学習指導要領が公示された。答申の中では現行学習指導要領の成果と課題として以下の点が指摘されている。

- ・ 現行の学習指導要領においてねらいとされている「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」などを総合的に育成することについて、充実が図られてきた。
- ・ 学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じる、学校種間の接続が十分とは言えない。
- ・ 中・高等学校においては、文法・語彙等の知識に重点。

外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、言語活動が不十分。コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた適切な表現力に課題。

これらの成果と課題や、グローバル化の急速な進展を受け、外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められていることを踏まえ、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として、特に、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理し、①「各学校段階の学びを接続させる」とともに、②「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、国際的な基準であるCEFRなどを参考に、小・中・高等学校で一貫した「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の5つの領域別に英語の目標を設定している。



外国語教育の抜本的強化のイメージ

小学校における外国語教育について

小学校においては、2011年度より現行の学習指導要領が全面実施され、第5・第6学年で年間35単位時間の外国語活動が必修化された。外国語活動においては、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としてさまざまな活動を行っているが、その成果と課題としては以下の点が挙げられている。

- ・高学年の外国語活動の充実により、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性が向上。
- ・音声中心の学習が、中学校段階での音声から文字への学習の円滑な接続に課題。
- ・国語と英語の音声の違い、発音と綴りの関係、文構造の学習において課題。
- ・児童の抽象的な思考力が高まる高学年において、より

体系的な学習が求められる。

以上を踏まえ、新学習指導要領では、中学年における外国語活動で、「聞くこと」、「話すこと」を中心に外国語の音声や基本的な表現などに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地を養った上で、高学年で児童の発達の段階に応じて「聞くこと」、「話すこと」の活動に加え、「読むこと」、「書くこと」を含めた言語活動を展開し定着を図り、総合的・系統的な指導を行う教科としての外国語が導入されることとなった。

新学習指導要領の実施に向けた条件整備、課題に応じた指導体制の整備等の重要性が指摘されているが、それらに対応するために、文部科学省では、小学校外国語教育の早期化・教科化支援として、①新教材整備、効果的な指導方法の普及、②教員の英語指導力・専門性向上、③指導者の確保・充実、に取り組んでいる。

①については、2017年度中に移行措置、先行実施に対応した新教材を配付。また、校内研修促進に向けて「研修ガイドブック」をホームページで公表、さらに、先

進的な取り組みを実施する地方自治体等を支援し、その内容や成果を全国に普及している。

②については、国が「英語教育推進リーダー」を育成し、同リーダーを通じて各小学校で校内研修を担当する中核教員に対し実践的な指導法等を伝達する。その後、中核教員が各学校で校内研修を実施することにより、全教員に研修機会を提供するものである。また、小学校の教科化に対応した専科指導が可能となるプログラムの開発および講習の実施を大学等に委託し、当該プログラムを免許法認定講習として認定することにより、小学校教員の中学校英語免許状取得を促進している。

③については、補習等のための指導員等派遣事業による専門性の高い非常勤講師および英語が堪能な外部人材等の活用を促進、外国語指導助手（ALT）等配置の一層の充実を図っている。

ALT等の活用について

③のALT等の配置については、答申においては次のように指摘されている。

- 今後、高学年の教科化に対応するためには、以下に述べるように、養成・採用・研修を通じた取組を進め、小学校教員の専門性を高めるとともに、中・高等学校の英語教員免許を有する小学校教員や退職教員が専科指導を行う、ネイティブ・スピーカーなどの外国語が堪能な外部人材が学級担任とチーム・ティーチングを行うなど、専門性を一層重視した指導体制を構築する必要がある。
- また、児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力を伸ばす上で、外国語指導助手（ALT）等を活用した指導は効果的であり、ALT等とのチーム・ティーチングなどを活用して指導体制の充実を図り、相手により配慮しながら、生きた外国語に触れる機会を積極的に増やすことが重要である。

ALT等については、2016年6月に閣議決定された「日本再興戦略2016」において「全ての小学校へ外国語指導助手（ALT）等外部人材2万人以上の配置や、実践的な研修の充実等により、全ての児童生徒に質の高い英語教育を実施する」ことが明記されている。

新学習指導要領においても、「学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な外部人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに指導方法の工夫を行うこと」が明記されており、今後、ALTをはじめとした外部人材の役割はますます大きくなるものと考えられる。

また、2016年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2016」でJETプログラムの拡充が明記されたことを受け、総務省、外務省、文科省の三省ではJETプログラム活用促進について通知を発出しており、今年度も7月7日に各都道府県・指定都市国際交流主管課、教育委員会、私立学校主管課宛に送付している。同通知において、JETプログラムによるALT等の活用事例を添付し、当プログラムの活用促進に加え、質の高い外国語教育を実践するための参考資料としている。

新学習指導要領では小・中・高等学校を通じて「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の5つの領域のバランスの取れた育成を図り、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していくことが求められている。ALT等もその一端を担っていくことが期待される。

2

ALT 全校配置により ALT の力を最大限に活用する取り組み ～市内統一の指導計画の作成と NET の活用を通して～

高崎市教育委員会学校教育課 指導主事 高橋 祐樹

小学校 1～6 年生の全英語授業で ALT を活用

本市の英語教育は、小学校の早い段階からネイティブの英語に触れながら英語に親しませることを通じて、将来の高崎市を担う、高い英語力をもった児童生徒を育成することを目指して進めている。これを実現するために、ALT 84 人を市内小中高等学校 84 校すべてに配置し、ALT を有効活用した英語の授業を実施している。

小学校においては、全小学校が 2016 年度に文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1 年生から 4 年生までは週 1 時間の外国語活動、5・6 年生においては週 2 時間の英語科を実施している。そして、1 年生から 6 年生まですべての英語の授業で ALT と担任等（教科担当教員を含む）のチーム・ティーチングによる指導体制をとっている。

小学校教員からは、「ALT がいると英語を学ぶ雰囲気ができる。」「ALT とのデモンストレーションで授業のためあてや活動のやり方が子どもによく伝わってよい。」といった感想が寄せられ、評価が高い。

指導計画「高崎プラン日本語版・英語版」の作成

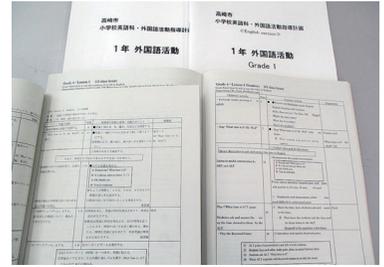
～英語の授業で ALT を最大限活用するために～

英語を学び続け、英語が使える人を育てるためには、授業において、ネイティブの発音をたつぷりと聞かせたり、ネイティブと英語で楽しい会話ができたとという達成感をもたせて学習意欲を高めたりすることが大切である。そのため、英語の授業においては、ALT を最大限に活用するようにしている。

ALT を有効に活用したチーム・ティーチングを行うためには、ALT と担任等が授業前に十分な打合せを行い、授業のねらいや活動の進め方などを共有し、授業を進行する上での役割分担を決めておかなければならない。特に小学校では、1 人の ALT が数多くの担任等と打合せを行う必要があるため、効率よく打合せができるようにす

ることが必要である。

そこで、まず、市で統一した指導計画として「高崎市小学校英語科・外国語活動指導計画」（通称「高崎プラン」、1 年生～4 年生の各学年



高崎プラン

（左：日本語版、右：英語版）

年間 35 時間分、5・6 年生の各学年年間 70 時間分）を市内小中学校教員の代表により作成した。指導計画の単位時間あたりの指導案には、ALT と担任等の役割分担が分かるように表記に工夫をした。そして、ALT の協力を得て、英語版を作成し、ALT と担任等が指導計画の内容を共有できるようにした。

これにより、担任等と ALT が一から授業を作り上げる必要がなく、両者が同じ指導案を手元におき、児童の実態に合った指導内容となるように調整を加える程度の打合せにすることができた。この「高崎プラン日本語版・英語版」の導入は、「何をどのように教えればよいか」が明確でよい。」「効率よく打合せができるようになった。」と、ALT や担任等から好評を得ている。

授業外での英語に触れる機会の充実

～英語を使えた喜びと世界への関心をもてるように～

ALT が学校に常にいるよさを生かし、授業や打合せ、準備以外の時間でも ALT を活用し、授業外で英語に触れる取り組みを各校の創意工夫のもとに実施している。以下は、その取り組みの一部である。

(1) 給食、掃除、休み時間での触れ合い

給食の時間は、ALT が学級を日ごとにローテーションしながら子どもたちの教室を訪れている。ALT は子どもたちの中に入って給食を食べ、今日あったことや好きなことなどについて楽しくやり取りをしている。また、掃除の時間も、師弟同行で子どもと一緒に掃除に取り組み、信頼関係を築いている。

また、休み時間には、ALT は子どもたちと一緒に遊び、

積極的に声をかけながら楽しい時を過ごしている。

ALT からは、「休み時間では子どもたちは緊張感がなく、授業より積極的に英語を使うことがある。」「子どものよい面が分かって、信頼関係も作ることができる。」との感想が聞かれ、英語の授業へのよい効果が出ている。

(2) 英語掲示物の充実

校内の掲示板上に「英語コーナー」を作り、ALT の自国の文化を発信したり、授業内容に関連した単語（イラスト付き）や写真を紹介したりしている。また、ALT の協力のもと、校内のさまざまな場所に単語付き絵カードを貼り、子どもたちが校内で英語を目にして新たな発見や授業の復習ができるようにしている。

このように、授業外の取り組みを充実させているところであるが、さらに今年度は、授業外で ALT と子どもが 1 対 1 で会話を楽しむ取り組みを広めていきたい。そして、子どもたちが「ALT と 1 対 1 で会話ができうれしかった。」「ALT に伝わって自信がついた。」など、学習意欲を高めるようにしていきたいと考えている。



授業の様子

昼休みの様子

NET (Native English Teacher) の任命と活用

～ ALT の指導力向上のために～

本市では、特に指導力のある ALT を特別非常勤講師 (Native English Teacher、略称 NET) に任命し、授業の一部を単独で指導することを可能にするるとともに、ALT を指導する役割を与えている。

現在、NET は 6 人おり、ALT からの授業についての相談に応じたり、学校では、より実態にあった活動を担任等に提案したりと活躍をしている。

今夏 8 月に ALT 全校配置が完了したことを受けて、ALT 研修を抜本的に見直し、右の表のように、NET を ALT の指導的立場として活用した研修を取り入れることとした。また、ALT が授業に関することを気軽に NET

に相談できる体制を作り、ALT 同士で学び合い、高め合える集団作りを進めていく。

ALT は子どもを引きつけ、授業や学校を明るい雰囲気にする素晴らしい力をもっている一方で、来日したばかりの ALT のほとんどが、英語を外国語として教えた経験がなく、教師としての経験もない。ALT が学校で輝くには、英語を外国語として指導する方法や日本の子どもたちのつまづきやすいところの理解、小学生という発達段階にあった言語の学習についての理解が不可欠であり、そのための研修を十分に行う必要がある。

このような課題に、日本の子どもをよく理解した NET が、自分の実践例を交えて丁寧に指導していくことは非常に有効なことである。

今後も英語教育推進に向け、英語の授業はもとよりさまざまな教育活動で ALT の力を最大限に生かし、子どもたちの英語力を高めていきたい。そのためにも ALT の指導力向上を目指し、研修内容のさらなる充実を図っていく。

研修 1	日時	8 月 8 日(火) 9:00～12:00
	場所 対象	市役所 新規 ALT
研修 2	日時	8 月 25 日(金) 9:00～12:00
	場所 対象 内容	市役所 新規 ALT ・高崎市での生活や学校生活について ・高崎市の英語教育の理解 (市教委による説明) ・勤務規律、出勤簿、届出書類などについて
研修 3	日時	8 月 31 日(木) 9:00～12:00
	場所 対象 内容	市役所 全 ALT ・新規 ALT と先輩 ALT (NET を含む) とのワークショップ (子どもの実態にあった指導の工夫や教材の工夫について情報交換) ・1 学期の成果と課題と 2 学期に期待することについて ・勤務規律、出勤簿、届け出書類などについて
訪問指導	日時	9 月 22 日(金)～12 月 15 日(金) の 1 日のうちの 3 時間程度
	場所 対象 内容	配置校 新規 ALT および、訪問指導の依頼をした学校の ALT 指導主事が授業参観をし、指導法について直接指導
研修 4	日時	10 月 24 日(火)・25 日(水) 9:00～15:00 いずれか 1 日
	場所 対象 内容	城南小学校 (英語教育強化地域拠点校) 新規 ALT ・授業参加による目指す児童像の把握 ・NET による実践事例の紹介 など
県主催研修	日時	11 月 22 日(水) 9:00～16:30
	場所 対象 内容	県総合教育センター 全 JET-ALT および希望者 ・実践発表 ・授業の進め方などワークショップ (選択)
研修 5	日時	英語教育強化地域拠点校の授業公開日 (2 学期)
	場所 対象 内容	英語教育強化地域拠点校 (小学校 5 校、中学校 1 校) 全 ALT ・授業参観 ・授業研究会 (ファシリテーター: NET)
研修 6	日時	2 月 15 日(木) 13:30～16:00
	場所 対象 内容	市役所 全 ALT NET と代表 ALT による実践発表
研修 7	日時	2018 年度の 1 学期
	場所 対象 内容	市役所 全 ALT 代表 ALT による実践発表 (NET による講評)

2017 年度～2018 年度 ALT 研修計画

3

ALTとの協働による国内最先端の教育

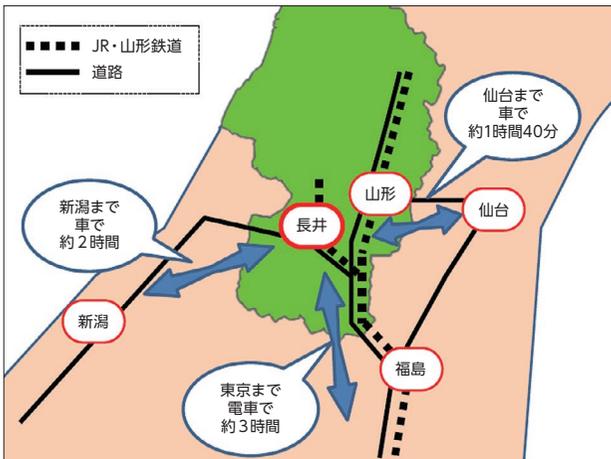
長井市地方創生戦略監兼教育戦略監 泡淵 栄人

本市の紹介

長井市は、山形県の南西部にある西置賜地域のほぼ中央に位置し、地域経済や都市機能の中心的な役割を担っている。

まちづくりについては、豊かな水に育まれてきた田園風景や江戸時代に最上川舟運で栄えた問屋や豪商の面影を残す歴史的建造物に代表されるように、自然的な土地利用と都市的な土地利用のバランスが良く、自然景観や地勢を生かしたコンパクトなまちが大きな特長である。

またフラワー長井線（株式会社山形鉄道）および山形新幹線（JR 東日本）を利用することで、首都圏からの所要時間は約3時間となり、日帰り圏内の距離となっている。



長井市位置図

ながい創生の柱

長井市では、安心して子どもを産み、育てられるためには、教育内容の充実が重要と考え、「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「教育・子育て」を戦略の柱としている。「子どもや子育て世代にとって魅力あるまち」を目指し、未就学児対象の国語力向上の取り組みを基盤に、英語教育とICT教育の相乗効果をねらった国内最先端の教育によって、「世界を相手に挑戦できる大人」を育てる教育システムづくりに取り組んでいる。

ALT × 地域 × ICT

市立伊佐沢小学校は、2015年度から教育課程特例校として指定され、英語教育のモデル校として独自の取り組みを続けている。

(1) 「勉強」ではなく、「楽しく」馴染むこと

10分、15分等の時間を単位として取り組むモジュール学習の導入や英語だけを使って算数や理科を教えるイマージョン授業の実施等によって、普段の学校生活の中で自然と英語に触れる環境をつくることで、楽しみながら英語の語彙を増やし、言い回しに慣れ、聞く力を養っている。

※対象学年やその他の取り組みは、次項参照。

(2) 学校密着型 ALT

伊佐沢小学校では、常駐するALTが中心となり、学校全体で英語を交えながら議論を重ね、モジュール学習に見合ったプログラムや教材の開発、授業の計画を



イマージョン授業で、「アルミニウムボートを作ろう（理科、小学4年生）」を行うカーリーナ先生

行ったことで、短期間で、同校全教員が、抵抗なく英語の授業を行うことができるようになった。

(3) ICTの活用

長井市が本格導入するICT教育（電子黒板やコンピュータの導入と活用）により、英語教育は進化し続けている。

昨年度は、全国初の取り組みとして、小学3年生以上の全児童を対象に、インターネットテレビ電話（Skype等）を活用した外国人講師とのマンツーマン授業を実施した。この取り組みを通じ児童は、「はじめて会う外国の人に英語が通じた」という充実感を得ながら経験を積んで、より自信を持ってコミュニケーションを取れるようになった。

また、授業の準備に際し、同校児童の英語レベルを把

握する ALT が中心となって授業の計画や相手側との調整を行ったことが、成功した要因の大きな一つである。

効果と今後の展開

モジュール学習であれば小学1年生からでも導入可能であり、学習を開始する学年が低いほど、英語への抵抗感を取り除く効果は大きい。また、モジュール学習をはじめとしたさまざまな取り組みの効果は、語学力の向上に加え、児童の学習態度にも現れ始めており、普段は引込み思案だった児童が、英語での成功体験をきっかけに積極的になった等、語学力の向上以外の面でも効果が出てきた。この積極性こそ、長井市が目指す「世界を相手に挑戦できる大人」の素地である。

長井市では、2017年度からALTを8人に増やし、市内全小学校・中学校に常駐できる体制を構築し、「伊佐沢モデル」を他の小・中学校に拡充する予定である。

また、モデルとなる伊佐沢小学校では、2020年に導入される新学習指導要領のその先を見据え、英語をツールとして活用し児童のコミュニケーション能力をさらに高めるため、日々ALTと協働して取り組んでいる。

また、モデルとなる伊佐沢小学校では、2020年に導入される新学習指導要領のその先を見据え、英語をツールとして活用し児童のコミュニケーション能力をさらに高めるため、日々ALTと協働して取り組んでいる。



5・6年生の目標

コミュニケーションの基礎を養う

馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、1日の生活などについて友達に質問したり、質問に答えたりすることができるようにする。

3・4年生の目標

コミュニケーションの素地を養う

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて友達に質問したり、質問に答えたりすることができるようにする。

1・2年生の目標

外国語に慣れ親しむ

身の回りのものを英語で言ったり、あいさつや教室内の指示など、身近で簡単なことを話したりできるようにする。

目標達成のためのカリキュラム

英語で簡単な日常会話ができるようになるには、約2,000語の英単語の習得が必要だと言われています。そこで小学校6年間で2,000語に触れられるようにするのが目標です。英語で楽しく交流したり、コミュニケーションツールとして英語を積極的に使うことができるようにしていくために、さまざまな英語活動を行っています。

モジュール 1~6年生対象

毎朝10分の英語活動で、英語の語彙を増やし言い回しに馴染むための時間です。学年ごとに内容を変えたり、クイズ形式で楽しく学べるようにしています。これは「脳を鍛える」手法であり、知能そのものを育て英語以外の教科にも好影響をもたらします。

グラマー 3・4年生対象

キーセンテンスを核に英語活動をする45分の授業です。モジュールで学ぶことで少しずつ語彙が身についてくると同時に簡単な文法も学び始めます。

イメージジョン 4・5・6年生対象

先生が英語だけを使って、算数や理科・体育といった英語以外の教科を教える45分授業で学年に応じ年4回~15回の計画です。ネイティブの英語にたっぷり触れることができます。聞く力が育ちます。

オールイングリッシュデー

年に1回、ALTの協力ですべての授業を英語で行う「オールイングリッシュデー」を開催しています。

インターネットテレビ電話を活用したマンツーマン英会話レッスン

子どもたちが外国人と直接英語で会話することで英会話力を養っていくことを目的に、インターネットテレビ電話(Skype)などの英会話レッスンを行っています。相手に「英語が通じた」という成功体験を積み重ねることで、より自信を持ってコミュニケーションできることも大きな利点です。レッスンは1人1回15分程度、学年に応じ年4回~8回行います。

長井市の取り組み

英語はちょっとだけ難しいときもあるけど、楽しいです。今日は工作でカリナ先生と紙で書を作って楽しかったです。アメリカとかに行くと、外国人と話ができたらいいなと思います。

伊佐沢小学校 3年 大沼 由奈ちゃん

最初のうちは発音とかがあまりでなくて難しかったけど、だんだん慣れてきて楽しくなってきました。英語でクッキングや体育をしました。将来は英語を使えない人にもたくさん教えてあげたいです。

伊佐沢小学校 4年 大塚 藍音ちゃん

先生が教えてくれて、ちゃんと覚えられたのが楽しいです。英語の本を読んだり、英語でゲームをしたりすることも楽しいです。将来は、英語を話す人とちゃんと話せるようになります。

伊佐沢小学校 2年 おおつ そうすけくん

わからないことを教えてもらって、どんどんわかるようになるのが楽しいです。英語で体育やクッキング、算数、図工をしました。長くスラスラ英語を話せるようになります。

伊佐沢小学校 5年 鈴木 成康くん

いろんな単語や英語を使って工作したりするのが楽しいです。最初は先生が言ったことを繰り返すだけだと思っていましたが、実際は活動があったととてもいいと思います。大人になって外国人とも交流できればいいなと思います。

伊佐沢小学校 6年 布施 大和くん

4

笠間市における英語教育の充実に向けた取り組み ～ JET-ALT の活用を通して～

笠間市教育委員会学務課指導室指導主事 入之内 昌徳

笠間市における英語教育の 充実に向けて

本市は、「文化交流都市 笠間」の実現に向けて、社会のグローバル化に対応した人材育成としての英語教育の推進を図っている。

特に、児童生徒の英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成を目指し、2015年度から重要施策として、笠間市英語教育強化推進事業「ABC 笠間プロジェクト」（総事業費約 8 千万円）を実施している。

本事業の目指す児童生徒像は以下のとおりである。

- ①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ②間違いを恐れずに伝え合おうとする態度の育成
- ③異なる文化への寛容な態度の育成
- ④郷土の歴史や文化への理解を深め、外国の人へ発信できる力の育成
- ⑤自律した学習者として、生涯にわたり英語を学び続ける態度の育成

これら 5 つの目指す姿を掲げ、中学卒業時に英語検定 3 級取得者 50% を目指している。

上記の主な事業としては、①小中・義務教育学校（全 16 校）への英語指導助手（本市では AET : Assistant English Teacher）の全校常駐配置、②希望する小学 6 年生（5 級以上で自己負担額 400 円、年 1 回）及び中学 3 年生（3 級以上で自己負担額 700 円、年 1 回）への英語検定公費助成、③市英語教育連絡協議会では、市英語教育アドバイザーとして大学教授を招聘し、小・中・高を通じた外国語活動担当及び外国語科教員による授業公開と相互参観及び研究協議、指導助言の実施、④小学生対象のサマーイングリッシュフェスティバルや小・中学生を対象とした 5 日間連続で実施する夏季英語集中プログラムの開催、⑤外部専門機関と連携した小学校外国語活動担当者及び中・高等学校外国語担当者、英語指導助手を対象とした指導力向上のための研修会の実施などさまざまな事業を展開している。

外国語指導助手コーディネーターの 配置

左記①の事業拡充に伴い、2011 年度からの直接雇用 10 人に加え、2015 年度から地方交付税措置による JET プログラム ALT 8 人を含む 18 人体制に拡充し、地域人材の活用の視点から、英語力を兼ね備え、コーディネーター業務の経験豊富な日本人を、学務課内の外国語指導助手コーディネーターとして新たに配置した。

主な職務として、①英語指導助手の労務管理や相談業務、②市教委や学校との連絡調整業務、③各学校訪問を定期的に行い、指導方法への助言や教員との打合せの支援、④英語指導助手研修会の企画・連絡調整、⑤英語指導助手の業務遂行状況の把握と評価などを行っている。

英語指導助手の主な活動内容

主な活動としては、常駐することで小学校外国語活動（小学 1 年～4 年生までは年間 12 時間から 18 時間程度、5・6 年生は年間 35 時間）や外国語科でチーム・ティーチングの授業以外にも、児童生徒と休み時間や放課後のチャットタイム、給食での会食や各学校の行事への参加を通して、児童生徒が英語に触れる環境づくりを中心に取り組んでいる。特に、小学校では外国語活動専用の教室環境の整備は AET を中心に進めている。

その他にも、近隣の小中学校で複数の AET による授業支援、インタビュー形式のスピーキングチェックを行



小学校外国語活動の AET 複数名での授業

パフォーマンス評価、県立高校や特別支援学校へゲストティーチャーとしての授業参加、小中学生を対象としたサマーイングリッシュフェスティバルや夏季英語集中プログラムの企画・運営を行うなど、年間を通じて多彩な活動を行っている。



サマーイングリッシュフェスティバル

また、AETによる小学生版「キツネタイムズ」や中学生版「FOXY NEWS」など英語による通信紙も定期的に発行し配布している。

さらに、毎週土曜日には、希望する小学5・6年生対象の「寺子屋事業」でAETによる英語教室を開講したり、市内幼児教育施設へCIR（国際交流員）とペアで定期的に訪問し、絵本の読み聞かせや英語での異文化交流活動などを行ったり、市民運動会をはじめとした庁内各課と連携した事業にも積極的に参加したりしている。

地域行事への参加

多くのAETは各学校区および地域への行事にも積極的に参加し、地元の方々と交流を図っている。



地域行事「ねぶた祭り」への参加

今年4月からは、市地域交流センターへグループ編成したAETを計画的に派遣し、毎月2回、シニア世代を対象としたイングリッシュスペースを開催している。「英語を話してみたい、外国の文化に触れてみたい」という参加者のべ300人以上が、英語をツールとしたAETとのコミュニケーション活動を行っている。

働きやすい環境づくりと支援

笠間市では、学務課総務担当職員と外国語指導助手コーディネーターが連携し、新規来日のJET-ALTが早く住環境に慣れるよう、勤務先に近いアパートに即入居し生活できるための準備を整え、移動の際の自転車を貸与している。

また、来日直後のJET-ALTにおいては、市独自にオリエンテーションの充実を図っている。小学校外国語活動および外国語科におけるチーム・ティーチングの在り方や授業者との打合せ方法、市独自の授業スタイルへの共通理解を図ったり、夏季休業中の英語プログラムを通して、児童生徒と触れ合う体験的な活動を行い、AETとペアで企画・運営を行うことで、親和関係を育みながら、児童生徒に親しみやすい存在となるよう実践的な研修を行ったりしている。

さらに、資質向上のための英語指導助手研修会を、共通理解を図る場として毎月実施している。主な内容としては、各学校での授業の振り返りや定期的な意見交換および日本での生活に必要な情報交換も行っている。

9月からは、JET-ALT配置校での勤務状況の実態把握と個別の支援を目的として、外国語指導助手コーディネーターが定期的に訪問し、巡回支援を行っている。

最後に、本年度離日したJET-ALTはグラスルーツの外交官でもあるので、今後は地域間の国際交流が図れる取り組みを推進することで、さらなるグローバルな人材育成を目指し、本事業の充実を図っていききたいと思っている。

5

津奈木町での小学校における JET-ALT の活用について

津奈木町教育委員会 教育長 塩山 一之

ALT 活用についての教育委員会の考え

(1) 本町の現状

2017年4月現在、1小学校9学級（内特別支援学級2学級）216人、1中学校5学級（内特別支援学級2学級）113人と町立の幼稚園と保育園が1園ずつある。

新学習指導要領で求められる英語教育の質の転換、小学校での教科英語の導入、大学入試制度改革の流れを踏まえて、将来ある子どもたちには、小学校の段階から英語に親しませるべきとの考えで、2015年8月からALTを2人（2017年4月現在女性2人）体制にした。海外からクールジャパンを求めて来日する外国人観光客が増加する中、当地への観光客はほとんどない現状である。したがって、ALT 2人は、国際化の観点からも重要な存在である。2016年度から小学校は文科省の教育課程特例校となり、英語活動を5・6年生年間70時間、3・4年生35時間、1・2年生15時間実施している。次年度からの先行実施へ向け時数の確保を研究中である。

(2) ALT を育てること

ALTは、英語のネイティブではあるが多くの場合教育の専門家ではなく、まさに教師初任者である。したがって、学校と教委は、まず、ALTが心の安定を持つようにコミュニケーションを図り、互いの信頼関係を築く中で、ALTの英語教育に果たす役割への期待を話し、教師としての自覚や自己有用感が高まるようにする。そのうえで、学校の教育方針や学習指導法、生徒の実態と接し方等を実際の勤務体験を通しながら理解を進め、さらに教師としての自覚を高めたい。そのようなALTに必要なのは心の安定である。それぞれの趣味や特技・好奇心を地域の中で生かす機会を紹介することが大切である。

(3) ALT 活用の基本

小学校には、現在県教委に配慮をいただき、2人の英語の免許を有する教諭がいる。1人を英語専科（ALT担当）、もう1人を学級担任にしている。このため、専科

とALTが事前に授業の打ち合わせができる恵まれた環境にある。各学期の勤務計画は、ALTを交えて学校・園・教委関係者の話し合いで決定している。ALT 2人は、原則1人を週5日中学校終日勤務、もう1人を週3日小学校午前・中学校午後、残る2日は中学校終日勤務とし、1カ月でこの担当を交代する。幼稚園・保育園の訪問は、要請に基づき、小中学校の勤務を調整して応じている。2人は、園児との活動を楽しみにしている。



2人体制による授業の様子

小学校での ALT の活用

(1) 活用の実際

英語活動では、T1を学級担任、T2を英語担当、T3をALT担当とし、授業では、役割を決めてALT任せにならないようにしている。ALTは、授業でネイティブとして音声面を中心に指導する一方、海外事情の情報提供者として、日本と外国の言語や文化の類似点や相違点を伝えている。授業中は、一斉指導と個別指導のメリハリを付け、子どもたちを励まし意欲付けている。3人の役割分担による授業は、子どもたちの明るく意欲的な表情、教師3人の快活な英語とジェスチャーで躍動的に展開している。子どもたちは、実に英語活動を楽しんでいる。指導案作成では、積極的にアイデアを出し、使用するカード等の資料作製や絵付きのワークシートを作製するなど進んで取り組んでくれる。授業後は、子どもた

ちが書いた単語や英文の添削や点検を行っている。

また、2人が担当している英語ルームには、創意工夫を凝らした掲示物や英語の情報を掲示し、英語学習の興味付けや雰囲気作りに努めている。季節ごとにハロウィーンやクリスマス、イースターなどの行事を積極的に紹介し、行事の体験活動を通して、児童との交流を図り、国際理解を推進している。さらに、いろいろな学校行事や体育（水泳）など他教科の学習に加わったり、給食を教室で一緒に食べたり、昼休みに子どもたちと一緒に遊んだり、英語活動の枠を超えた活動もしてくれる。この姿こそ、まさに2人が教師になっている姿である。

(2) ALT 担当の役割

4年生以上を対象に行った「英語活動アンケート」では、76.5%の児童が英語活動を「好き」と答え、約7%の児童が「好きではない」と答える状況を受けて、ALT 担当には、ALT のアイデアや提案を引き出しながら、児童の興味・関心をしっかり把握し、指導内容・方法の改善を図り、さらに英語活動好きを増やすための手だてを工夫してほしい。加えて、学級で指導に当たる担任等には、英語活動のノウハウを共有する機会を増やし、職員の英語に対する苦手意識や負担感を軽減させてほしい。さらに、ALT 担当には、職員の誰もがALT とのコミュニケーションを臆せず取る雰囲気作りも期待している。



ALT の手作りの教材も用いられる

ALT への更なる期待と課題

ALT に他の教科や学校行事への参加を促しているが、小学校でそれを実践し、子どもたちと気さくに交わり、2人は自分の持ち味を發揮し、すっかり学校生活に馴染

み、授業を楽しみ、「子どもたちから元気をもたらしている」との話もしてくれる。ALT があらゆる学校の活動に参加することで、日本の教育の多様性や良さを学ぶと同時に、国際理解につながる学び合いの時間が生まれる。このことで、さらにALT の存在価値が高まる。この2年間、2人の素晴らしいALT に恵まれ、我々も多くを学んだ。



児童との距離が近い教育が行われている

まとめ

将来に向けて、何事にも臆することのない積極的な子どもたちを育てること、これがグローバル化の中で重要なことである。外国人が多数日本を訪れるようになったとはいえ、地方では外国人と接する機会はまだまだ少ない。だからこそ、日常的にALT が学校にいる意義は極めて大きい。目の前にいるALT から生きた英語を学ぶチャンスをものにしようとする、積極的で物怖じしない、好奇心と意欲にあふれる子どもたちを育成することで、ALT 雇用の意義はさらに高まっていくだろう。

6

御杖村で活躍する ALT は

御杖村立御杖小学校 教頭 音村 泰弘

御杖村の概要

御杖村は、奈良県の最東端に位置し、標高 1,000m 以上の山々に囲まれた山間の村である。東は三重県津市美杉町に、西は東吉野村に、南は三重県松阪市飯高町に、北は曾爾村に接している。

近年、交通手段の発達とともに、村内を通る伊勢本街道の利用も少なくなり、静かな山村として現在に至っている。

主な産業は、農林業で、村の総面積の約 90% が森林であり、良質材を産出している。さらに、夏の涼しい気候を利用して、野菜等の栽培が盛んである。



御杖村立御杖小学校

校区の概要

本村には、小学校・中学校がともに 1 校ずつあり、本校の児童数は 23 人である（2017 年 5 月 1 日現在）。

本校区は、御杖村全域にわたる 4 大字からなり、児童全員がバス通学をしている。過疎化による人口減少と核家族化や高齢化の現実もあるが、老若の結びつきが強く、近隣の人々との温かい人間関係が残っている。また、校区の人々子どもへの期待も大きく学校教育に対しても大変協力的である。

本校の ALT は

本村の ALT は一人であるが、村内の職員住宅に在住し

ており、そこから小学校・中学校に通い教育活動を行っている。1 週間の勤務形態は、下記の通りであり、1 年生から 6 年生までを対象に毎週月曜日の午後と火曜日の全日外国語活動の指導をしている。授業のないときは、打ち合わせや教材研究などを行っている。他の曜日は、村内の中学校で教育活動を行っている。

	月	火	水	木	金
1					
2				※小学校の授業がないときは、	
3		6 年生		・打ち合わせ	
4		5 年生		・教材研究	
5	1・2 年生			・中学校での授業を行う。	
6		3・4 年生			

ALT と外国語活動を進めるに当たって、期待されることは、大きく次の 2 点である。

まず、外国語活動を行う中で、英語でのコミュニケーションを体験するときにネイティブな発音（スピーカー）をいつも聞くことで発音やアクセントのほか、間のとり方などに直に触れることができること。

次に、外国語活動を通して、互いの言語や文化を理解することで地域の国際化や郷土を見つめ直す態度を育てるための中心的役割を果たすことである。

(1) 具体的な活動として

授業は、基本的に学級担任とチーム・ティーチングの形式で展開している。内容としては、生活の中での簡単な会話をはじめとして、英語ノートなどの教材、カードやカルタ等の手作り教材を活用したり歌やゲーム・クイズなど遊びから学んだりするほか、行事についてや自分が日本に来てから行った旅行の体験を話すなど話題を広げて、児童の経験も取り上げながら興味・関心が高まる授業作りがなされている。そこでは、五感をゆさぶる工夫もなされている。

また、パソコンやタブレットなどのさまざまな ICT 機

器を活用して効果を上げている。

学期の終わりにはおかし作りをすることで家族的な雰囲気作りが心がけられており、楽しく過ごせている。



教室での授業の様子

授業時間以外では、儀式や運動会などの学校行事に練習も含めて参加している。

給食のときは、1年生から6年生まで各教室を順に回って児童・学級担任と一緒に会話も楽しみながら食べている。



テレビ会議システムでの授業の様子

掃除のときは、本校は縦割り集団ごとに分かれて清掃することになっているが、児童と一緒に清掃している。よく一緒に話をしながら体育館のモップがけをしているのが印象的である。

下校会にも参加し、バス停まで送り発車するまで教員と共に見送っている。

放課後、バスの待ち時間を利用して海外でのショートステイの予定がある児童に対して語学指導（学びをサポート）している。

(2) 活動の成果

外国語活動を通して、コミュニケーション力を高めることができたが、具体的には、以下の2点について考えられる。

① 聞くこと（基本）

授業時間だけでなく接する時間が十分確保されていることと少人数がゆえのゆったりとした環境なので、繰り返し聞くことができ、指導者も児童に十分考える時間を保障できたことで小さな成功体験を認める機会が増え、自信を得ることができた。そのおかげで、その後の活動意欲も高まった。

② 話すこと

ともすれば失敗を恐れたり不安なために躊躇していたりしていたことで話せなくなることが多いが、先生が、いつもいる安心感からか失敗を気にせずとにかく話せる雰囲気があることで積極的に会話をする体験ができた。

これらのほかに「読むこと」、「書くこと」に関してもさまざまな状況に応じて、学習することができた。

さらに、教師とALTとの授業等の打ち合わせも十分に行うことができた。

以上のように本村に在住し、地域の伝統・慣習や人々と触れ合いながら教育活動を行うことで、外国語活動による言語活動を活性化させることができている。また、互いに文化交流することが、郷土の良さの認識を高め、広い視野で物事を考え行動する態度の育成にもなっている。これは、ALTの教育活動への熱意と創意工夫によることが大きいですが、ALT配置や運用の整備と協力があつてのことである。今後の継続的な実施が望まれる。

7

JET-ALT の活用を検討するにあたって

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

2018 年度 配置要望調査開始

JET-ALT の招致者数は近年増加傾向にあるが、各地方自治体においては今まで以上に JET プログラムの積極的な活用を検討いただきたい。地方自治体における JET 参加者の任用に要する経費（報酬・旅費など）については、地方交付税措置が講じられている。また、JET プログラムでは離島や山村地域を含む全国に JET-ALT の配置が可能であり、配置にあたっては任用団体からの要望を事前に調査している。

任用団体が配置の際の要望として指定できる項目には、国籍や自動車運転免許の有無など 10 項目があり、「小学校勤務の有無」も含まれている。要望の際には優先度の高いものから挙げてもらい、自治体国際化協会（クレア）が全任用団体間での調整をしながら、できるだけ多くの要望を満たすようにあっせんする。

2018 年度（第 32 期）の新規招致者配置要望調査については、各都道府県・政令指定都市の国際交流担当部局（取りまとめ団体）へ通知をしたところであるため、JET プログラムの導入および配置人数の増加を考えている任用団体は、取りまとめ団体を通じて配置を要望いただきたい。

英語圏 ALT 新規招致者要望調査スケジュール		
	通知 (クレア→ 取りまとめ団体)	結果報告 (取りまとめ団体→ クレア)
4 月来日*	2017年8月21日	2017年10月11日
7・8 月来日	2017年9月13日	2018年1月29日

* 4 月来日が可能な英語圏招致者は限られているため、要望に応じた配置またはあっせんができない場合がある。

JET プログラムのサポート体制

クレアでは、JET-ALT 参加者および任用団体に対して、次のような研修・サポート体制を整えており、任用後のフォローアップも行っている。

● JET-ALT 参加者向け

来日直後オリエンテーション

日本人教師とのチーム・ティーチングの教授法や模擬授業等の研修が行われる。小学校・中学校・高等学校で内容が異なり、参加者は配置先の任用団体が指定した研修を受講する。

ALT の指導力等向上研修

クレアと取りまとめ団体の主催で行われ、一層効果的な学語指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させ、外国語教育の充実を図る。

日本語講座（初級・中級・上級コース）

基本的な日本語を学習する機会を、受講者のレベルに応じてオンライン講座により提供する。

資質向上支援

英語教授法（通称：TEFL）の習得に係る経費の一部を助成する。また、日本語能力試験（通称：JLPT）N3 の合格者に対し、受験料の全額を助成する。

● 任用団体向け

新規 JET プログラム担当者等セミナー

新規に JET を受け入れる任用団体や、新たに JET プログラム担当者となった者を対象に、受入事務や JET との接し方を学ぶセミナーを開催する。

都道府県別サポート研修会講師派遣

自治体担当者が参加する都道府県別の研修会に、外部講師やクレア職員を研修の講師として派遣する。

クレア・インフォメーションデスク

任用にあたって生じる疑問等に、電話・メールで対応する。JET 参加者への説明が困難な場合は英語によるコミュニケーションの支援も行う。

【問い合わせ先】

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

Tel : 03-5213-1733

Fax : 03-5213-1743